

# 林业とくしま

第28回全国育樹祭 (2004年秋開催)  
大会テーマ・シンボルマーク・ポスター原画が決定

広げよう 青い地球に 緑の大地

大会テーマ 最優秀賞 (鳴門市 主婦 横瀬智美さん)



表彰式の様子 (14. 12. 25)



ポスター原画 最優秀賞  
(徳島商業 横田実希さん)



シンボルマーク 最優秀賞  
(徳島市グラフィックデザイナー 松田廣志さん)

No. 263  
2003.1

# やまびこ

## 新年あいさつ

徳島県知事

大田 正

皆さん、明けましておめでとうございます。

希望に満ちた平成十五年の年頭に当たり、皆様方のご健康とご多幸を心からお慶び申し上げます。

我が国では、厳しい経済雇用情勢が続き、国内外で様々な社会不安が増大する一方、地方におきましても、危機的な財政状況、少子高齢化や環境問題への対応、市町村合併の検討の本格化など、大きな変革のうねりが押し寄せております。本年は、こうした状況に正面から向き合い、元気の出る、そして希望の持てる徳島の実現に向けて、県民の皆様お一人おひとりの主体的な参画をいただきながら、未だの基盤づくりの第一歩としなければならない大切な年であります。

このため、県としては、「豊かな環境作り」、「支え合うくらしづくり」「元気な地域づくり」、「明日を拓く人づくり」など早急に対応することが迫られている課題について、重点的・戦略的に取り組む施策を盛り込んだ「プラン」を策定することでおり、元気の出る、そして希望の持てる新しい徳島を想像してまいりたいと考えております。

特に林業関係につきましては、「緑の公共事業」を「元気な地域づくり」の重点施策の一つに位置づけております。

これは、本県の二十一世紀の森林づくりの理念となる「とくしま森林づくり構想」の実現に向け、新たな施策を導入し、森林の持つ多面的な機能の持続的な発揮と山村の振興を目指すため、間伐等の森

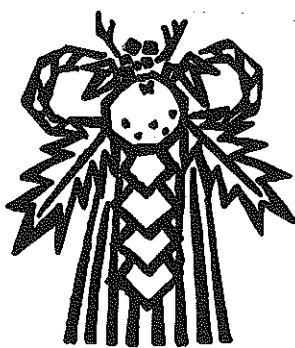
林整備を中心にして、森林管理、雇用の拡大、交流促進、県産木材の需要拡大等の森林に対する総合施策として実施するものであります。

私は、今後とも県民の皆様の声に真摯に耳を傾け、何を望んでいるのか、民意は何処にあるのかを

真剣に考え、民意が反映できる「県民主権」の県政を追求し、明日の徳島づくりに邁進してまいりたいと

考えておりますので、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様方にとりまして、良い年となりますよう心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。



## もくじ (林業とくしま 263号)

やまびこ(新年のあいさつ) ..... 2

技術情報(木材需要開発センターの新たな展開) ..... 10

林政の窓(未利用木質資源の適正処理施設が完成) ..... 4

阿波だぬき(ああ ふるさと) ..... 12

特 集(第28回全国育樹祭の状況について) ..... 6

東西南北 ..... 13

林研とみんなの情報交流コーナー ..... 8

広 告 ..... 15

# やまびこ

新年あけまして  
おめでとうございます

徳島県林業改良普及協会

会長 谷 奥 歲 信

会員各位におかれましては、ご  
壮健で二〇〇三年の新春を迎えら  
れましたことと、お慶び申し上げます。  
さて我が国の森林、林業、山村を  
取り巻く極めて厳しい状況が、依  
然として続いております。一方、関  
係者の努力により森林の持つ水源  
かん養機能などの公益的機能も、  
広く社会に認知されて参りました。  
その評価額は、先の日本学術会議  
から農林水産大臣への答申により  
ますと、全国で年間六七兆七八三  
一億円という国家予算にほぼ匹敵  
する額となつております。

その森林の持つ多面的機能の持  
続的な発揮には適正な森林整備が  
重要です。その為、国では、総合的  
な施策をして「森林・林業基本法」  
の制定がされました。その具体的  
な実施を着実にしていくことは緊  
急かつ重要な課題となつています。  
そしてその施策の実りある成果を  
上げるためには、本協会の役割は、



## 林業グループ活動の発展に夢を託して

徳島県林業研究グループ連絡協議会

会長 橋 本 堅 次

平成十五年の新春を迎え、謹んで  
お慶びを申し上げます。

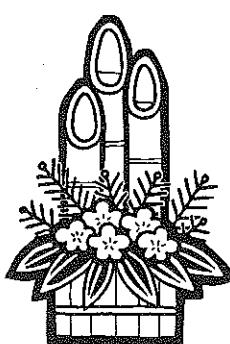
平素は、徳島県林業研究グループ  
連絡協議会活動各般に渡り、格別の  
ご指導ご協力頂いております事、厚く  
御礼申し上げます。

さて現在本県林研連絡協議会に  
は、四九の林研団体が所属しておりますが、  
何かと厳しい情況の中であります。が、  
益々活発な活動を開催しております。

昨年、島根県で開催された中国四  
国ブロックの林研活動発表大会には、

阿南管内の丹生谷林研グループが徳  
島県代表として出場し、ログハウスの  
建築や、木製勉強机製作等の活動を  
通して、地場産木材の需要拡大推進  
対策が、地域山村林業の活性化に繋  
がる事を、大きくアピールし深い共感  
を与えました。

又、平成十四年度いきいき活動定  
着促進事業に於いても、各林研グ  
ループからの熱心な事業実施の要望  
により、当初計画を大きく上回る事



業費規模となりました。現在着々と展  
開中でありますが、それは地域山村及  
び地域林業の活性化に多大の貢献が  
あるものと期待を致しております。

不況の出口はまだ遠いかも判  
りませんが、こうした時代だからこそ、  
我々徳島県林研グループ会員並びに  
関係機関は、一層積極的な情報交換  
や、情報収集を勧め、より強固な連携  
の下に、来るべきその時に備えた態勢  
作りを図る事が大切であると考えてい  
ます。

終わりになりましたが、関係各位の  
皆様方の御健勝と御活躍を衷心より  
御祈念致しまして、年頭の御挨拶に  
替えさせていただきます。

# 未利用木質資源の適正処理施設が完成

徳島県林業振興課  
木材・林産物担当

金井仁志

規制  
一 昨年十二月に強化された焼却

昨年の十二月一日から、ダイオキシン類の排出抑制を目的として廃棄物処理法等の規制が強化されました。

その一点目は、すべての廃棄物焼却炉を対象に、その構造の基準が厳しくなっています。この基準は、製材工場から発生する木くず等の産業廃棄物以外にも、各家庭で一般ゴミを燃やす焼却炉も対象となっています。

(表一 参照)

そして、2点目の規制強化は、ダイオキシン類の発生濃度基準が厳しくなったことです。ただし、これは火床面積〇・五m<sup>2</sup>以上等の廃棄物焼却炉が対象で、県への届出、年1回のダ

イオキシン測定などが必要なことは從来どおりです。(表二 参照)

## 二 規制に対応するための経費

このような規制に対応するため、林業・木材産業者にはかなりの負担がかかります。

自分で廃棄物を焼却する場合、火床面積〇・五m<sup>2</sup>未満の小型焼却炉を購入や改修するのに一々二百万円ぐらい必要と言われています。

〇・五~二・〇m<sup>2</sup>未満の規模では、一千万円位の改修費等が必要なうえ、毎年、ダイオキシン測定費(五十

(表-1) 廃棄物処理法に基づく焼却炉の構造基準

- 焼却炉は、ア、焼却に必要な空気の通風が行われるもの。  
 イ、空気取入口と煙突の先端以外に外気が接しないもの。  
 という従来基準に加え、平成14年12月から次の4条件が必要。  
 ①800°C以上の状態で燃焼できるもの。  
 ②①の状態を保つための助燃装置(バーナー等)のあるもの。  
 ③燃焼室の温度を測定する装置(温度計)のあるもの。  
 ④外気と接さずに定量づつ廃棄物を投入できるもの。

七十万円程度)が必要となります。さらに、二・〇m<sup>2</sup>以上の規模では、県の許可が必要な施設となり、排ガスの冷却装置、高度ばいじん除去装置など数億円程度の経費が必要となります。

## 三 津田木材団地における共同焼却炉改修の経緯

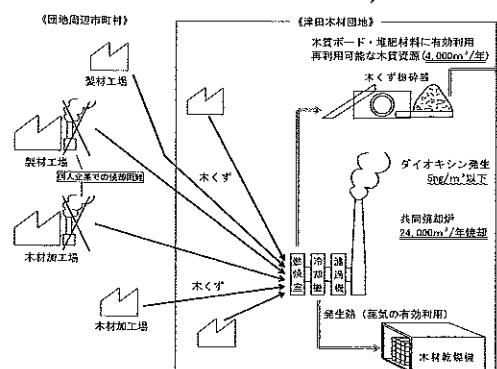
しかし、林業・木材産業を取り巻く状況は、消費税率アップの駆け込み需要で住宅着工も木材価格も好調であった平成九年以降は、価格も出荷量も毎年のように下落。この五年間の予想外の不況によって、規制に対応できる体力も予想外に衰えてきましたのも事実です。

こうした中、製材工場等から発生する木くず処理の受け皿として、津田木材団地にある共同焼却炉の改修計画が持ち上がりました。この焼却炉は、団地進出企業の木くず処理施設として昭和四十九年に設置され、徳島県木材団地協同組合連合会により管理・運営されています。この焼却炉が老朽化してきたこと、

# 林政の窓

十三年十二月に事業着手。共同焼却炉の改修(事業費約四七二百万円、うち国補助金一五〇百万円、県補助金七五百萬円)は、昨年十一月末に工事が完

### 津田木材園地の共同棗却恒改修の全体計画図



ダイオキシン対策の必要に迫られたことなどを受け、連合会では改修を計画。平成十二年から県環境部局と改修の構造等を協議することも、木くず焼却熱の有効利用についても検討してきました。

当初は、発電も視野に入れてきましたが、高い設備費、買電単価の下落、十分な木くずが集まるかなどの問題もあり断念。代わって、焼却熱を木材乾燥の熱源に利用するという現在の計画となりました。

## 四 共同焼却炉の概要

#### 四 共同焼却炉の概要

この計画は林野庁の林業構造改善事業の一環として、国・県の助成を受

成。十二月からは焼却事業をスタートさせています。また、現在は焼却熱を利用した乾燥施設の整備を行っていきます。

団地内で焼却していた量の一倍を燃やす程の十分な能力を有しています。木くず(産業廃棄物)の処理に頭を悩ませている事業者の方は、津田木材団地での木くず処理についても検討してみてください。

なお木くずの持ち込みには、自ら持ち込むか、産業廃棄物収集運搬業の許可を持つ者に委託することが必要です。

営業時間は、日曜・祝祭日・盆・正月の休みを除き、朝八時三〇分から夕方四時三〇分まで。

その他、詳しいことは徳島県木材團地協同組合連合会（電話〇八八一六六二一三七一一）までお問い合わせください。

このため、都市部では、周辺住民への影響も勘案し、津田木材団地などの大規模施設で、適正に処理していく必要があると思われます。

五 木質資源の有効利用に向けて  
最後になりましたが、林業木材産業界では、木くずの処理経費も出ないほど厳しい情況に追い込まれています。

このため、津田木材団地以外の地域においても、木くずの処理や有効利用が話題になるものの、なかなか具体化できません。共同処理施設には、高い設備費、処理業許可の取得、周辺住民の理解といった問題があります。リサイクル製品の製造も、販売先や採算性が不透明で、事業化までには結びつきにくい状況です。

このため、都市部では、周辺住民への影響も勘案し、津田木材団地などの大規模施設で、適正に処理していく必要があります。



## 第28回全国育樹祭の状況について

平成16年秋季に県立神山森林公園において開催される「第28回全国育樹祭」の大会テーマ、シンボルマーク、ポスター原画が表紙のとおり決定しました。

これらの作品は、昨年7月から9月にかけて県内一般公募を行いました。そして、審査委員会による厳正な審査を経て、最終決定となりました。なお、応募総数及び入賞者は次のとおりです。御協力いただきました皆様、ありがとうございました。また、平成16年春には、参加者の募集を計画する予定ですのでその際には御参加ください。

決定しました最優秀作品を用いて、大会のポスター・チラシに使用するなどPR用に使用し、開催に向けての気運を盛り上げていきたいと思います。

なお、14年1月31日(金)～2月2日(日)までの3日間に県立近代美術館1階ギャラリーにおいて入賞作品を展示しますのでご来場ください。(入場無料)

### 入賞作品一覧

#### ☆ 大会テーマの部 【応募総数 850点】

##### 最優秀

##### 『広げよう 青い地球に 緑の大地』

(鳴門市 横瀬 智美 34歳)

##### 優秀

##### 『はぐくもう 森と人との ハーモニー』

(徳島市 浜田 純輝 10歳)

##### 『若い芽を やさしく育む 豊かな心』

(徳島市 住谷真紀子 37歳)

##### 佳作『人の和で 緑を運べ 未来まで』(阿波町 住友 常一 68歳)

『共に生きよう 人と森』(徳島市 元山 善博 14歳)

『いのちはぐくむ 緑の地球』(石井町 片山 康雄 67歳)

『未来へ手渡す 緑の遺産』(佐那河内村 新開 千絵 12歳)

『未来へつなげ 緑あふれる ふるさとづくり』(北島町 松浦 亮 11歳)

#### ☆ シンボルマークの部 【応募総数 312点】

##### 最優秀 (松田 廣志 61歳 徳島市)

##### 優秀 (森 務 52歳 藍住町)

(古川 敏夫 52歳 松茂町)

##### 佳作 (嵯峨山高弘 30歳 徳島市) (福島 康仁 44歳 徳島市)

(今川 瞳子 25歳 脇町) (吉岡 滋 60歳 徳島市)

#### ☆ ポスター原画の部 【応募総数 497点】

##### 最優秀 (横田 実希 徳島商業高校3年)

##### 優秀 (阿部 晴香 西麻植小学校3年)

(永田 順子 城西中学校3年)

##### 佳作

(坂東 侑香 城ノ内高校2年)

(広瀬めぐみ 佐古小学校3年)

(伊月はるか 千松小学校4年)

(堤 あづさ 三島中学校3年)

(佐藤栄奈美 三好中学校3年)

(木下 魁 国府小学校1年)

(平島 迪 西麻植小学校5年)

(池内 由貴 徳島商業高校2年)

(佐藤 未彩 脇町小学校1年)

# 特集

## (受賞風景)

### ○ 大会テーマ



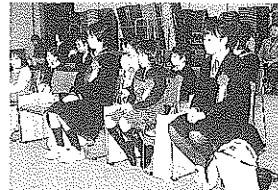
最優秀  
横瀬智美さん

### ○ シンボルマーク



最優秀  
松田廣志さん

### ○ ポスター原画



最優秀  
横田実希さん

### ○ 今後の主なスケジュール予定

14年度:準備連絡協議会開催、育樹祭用廣告塔除幕式【3月】

15年度:全国育樹祭準備室(仮称)設置【4月】、実行委員会設置【6月頃】

開催日の決定【1月】、各市町村でのやすらぎの森育樹活動【秋～】

16年度:全国育樹祭実施本部設置【6月頃】

● 全国育樹祭とは  
● 國土綠化運動の一環として、活力ある緑の造成機運を高め次代への連携を図ることを目的に開催されている。(天皇陛下:植樹、皇太子殿下:育樹)  
● 先催県の例によると、皇太子同妃両殿下の行啓を仰ぎ全国植樹祭で天皇陛下がお手植えされた木のお手入れをはじめ、県外招待者の育樹行事(枝打ちや施肥)や式典行事、アトラクションなどが行われている。

## (おしらせ)

新しい樹木医さんを紹介します。

樹木医の資格審査にみごと合格され、2名の樹木医さんが誕生しました。

徳島市応神町 田川 一郎 (43歳) 写真右 鳴門市大津町 矢野 英治 (47歳) 写真左  
去る12月17日、とくしま森と緑の会において、徳島県樹木医会の横山利治会長からお二人に樹木医登録証が授与されました。

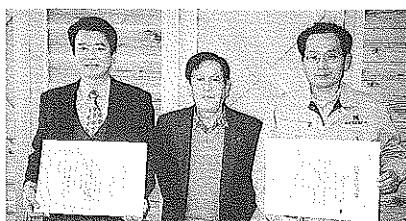
お二人とも本業は造園業で、樹木医の知識・技術をすぐに活かせます。

また、樹木医会の活動にも積極的に参画していきたいと抱負を述べられていました。

徳島県樹木医会は、働き盛りの40代のお二人を加えて9人になりました。組織がより充実したこと、今後の活躍が大いに期待されます。

緑化の推進、樹木の保護、治療、樹勢回復などに関する相談・お問い合わせは、とくしま森と緑の会まで

(電話・FAX 088-652-4110)



## 「林研が池田中学生を指導」

池田中学校二年生が池田町内の五つの林研グループに分かれて林業体験学習をしました。

これは同校が総合学習の一環として取り組んでいるもので、十月の恒例行事になっています。

ビオトープ池田では、二十一名の生徒を受け入れ、間伐や下刈り作業を指導しました。

下刈り作業は、大きな鎌と担当区域の広さに躊躇していましたが、作業後の仕上がり具合に満足し、自分の能力に自信をのぞかせていました。また間伐作業ではチエーンソーにも挑戦し、豆林家の片鱗をうかがわせていました。

真鍋会長の林業の話にも、関心を寄せながら熱心に聞いたので、全生徒からお礼状が届きました。学校では、この体験をまとめた発表会が予定されており、指導者も招かれることになっているので、林研にとつても楽しみなイベントになっています。

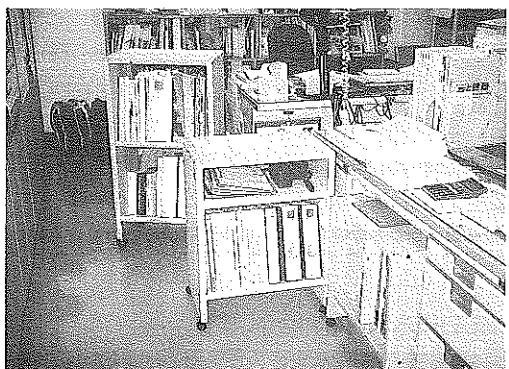
池田農林事務所 佐々木頼孝

川島農林事務所 村上英司

### 「職場に潤いを・・・！」



### 県産の天然シンボル太 はいかがですか？



これからは、一人一人が省エネルギーと地球温暖化対策を考える時代。ぜひ、家を建てるなら、神山町の天然シンボル太と県産のスギ・ヒノキの使用をご指定ください。

これからは、一人一人が省エネルギーと地球温暖化対策を考える時代。ぜひ、家を建てるなら、神山町の天然シンボル太と県産のスギ・ヒノキの使用をご指定ください。

徳島農林事務所 早田健治



神山町では、かみやま林業振興会天シボ部会のメンバー四十五名が、昭和五十九年以来共に協力、啓発し合いながら、營々と育林作業をすすめ、現在では、五万本の天然シンボ丸太用樹がすくすくと成長を続けています。

部会では、これを有効に活用するため、常設展示場の設置をはじめ、地元建築関係者との意見交換会、徳島地区の工務店ハウスメー

カーへのPR等多才な取り組み

## 林研とみんなの情報交流コーナー

### 「葉枯らし材と 玉取り講習会」開催

九月十七日と十月二十四日の二回、宍吹町古宮内田と一字村木地区において美馬郡木材協同組合協力会（林研グループ）主催の「葉枯らし材と玉取り講習会」が、述べ二十七名の参加者のもと開催されました。

上野盛協力会会长のあいさつのあと、美馬郡木材（協）石田主任から葉枯らし乾燥材について、単価が高くなる等のメリットについて説明がされました。

その後搬出現場において、実際採材方法について検討がされました。曲がり材の場合、少々短くなつても直材をとつた方が有利であるということでした。

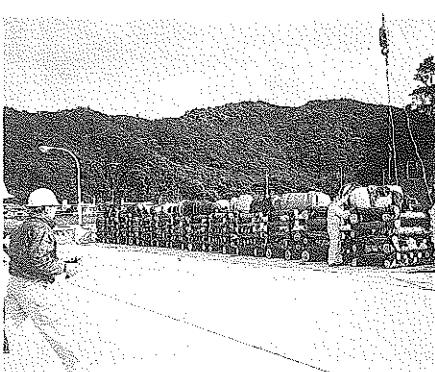
比較的規模の小さい講習会でしたが、それぞれの地元の林業家が参加され、「一円でも多く儲かるよう」に熱心に耳を傾けていました。

脇町農林事務所 坂田和則



### 日和佐町青年林業者会議 木製魚礁の制作

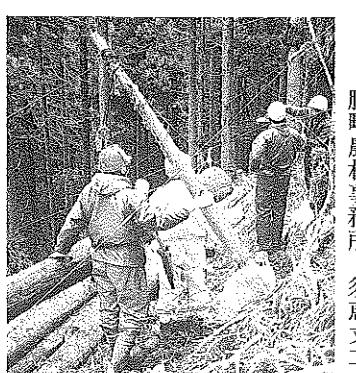
日和佐町青年林業者会議は、平成十四年十一月に間伐材を使用した魚礁を三十基製作し、日和佐町青年漁業者会議のメンバー約二十人と十一月十四日に、日和佐町恵比須浜沖に沈設しました。



### 美馬地区新規林業就労者 架線集材研修を開催

木材需要の拡大が求められているなかで、間伐材を使用した魚礁は、新たな間伐材の利用方法として期待されます。

このような間伐材を使用した木製



ス

脇町農林事務所 須恵丈二

魚礁の取り組みは、全国的に拡がりつつあり、平成十四年九月には、山口県において全国の関係者が集まり、間伐材魚礁推進会議が開かれ、互いに情報交換と木製魚礁推進の決議が行われました。

木製魚礁の効果は高く、漁業関係者には好評であり、今後も続けていきたいとのことです。

日和佐農林事務所 徳永 章

今回林地が、森林林業研究所と木屋平村の「スギ間伐材の葉枯らし（巻枯らし）による林内乾燥技術の確立」の共同試験地であることから、単線循環式架線の検証、材の搬出に加え、土場での材の重量・含水率・強度の測定を行いました。

架線の検証では、架線の架設指導を行った、中山修一さん（宍吹町林業家）、定明さん親子の長年の経験による工夫が随所に見られ、参加者から多くの質問と関心の声が聞かれました。

また、土場での材の測定では、私たちも参加者も測定器械・方法を見るのが始めてで、興味深く作業を見守っていました。

なお、調査結果については、森林林業研究所でとりまとめ報告される予定です。

脇町農林事務所 須恵丈二

# 木材需要開発センターの 新たな展開

## ー住宅資材性能試験等の整備ー

徳島県立農林水産総合技術センター 森林林業研究所

主任専門技術員 網田克明

### 一はじめに

国の林業構造改善事業の指定を受け建築を進めてきた住民資材性能試験棟が、昨年六月に森林林業研究所内に竣工しました。

この数年の間に木造建築を巡る状況は大きく変わってています。建築基準法改正や、いわゆる品確法の施行により、県産木材を使った住宅部材についても客観的な性能値が求められるようになります。さらには、年末には磨掃法等の規制強化により、木くず等の処理が課題となっています。

### 二 施設の目的

こうした環境変化に対応するため、新しい試験棟ではいくつかの試験課題を設定しています。その第一は、住宅部材の性能評価



施行した住宅資材性能試験棟

です。本県は板材の产地ですから、とくに壁パネル、床製品などについて性能データを把握できる試験機器を整備することにしました。

第二に、住宅部材の品質を確保するため、新たな乾燥方法について検討する必要があります。

第三に、環境規制に対応し、残材やバーク等の未利用材について利用方法を検討することにしました。

建物の主体構造は木造ですが、一部鉄骨・RCとしました。木造部分の構造材と内装材には県産すぎを使用し、木材の使用量は構造材三十六方メートルのほか、外壁パネルや屋根野地板、造作材に三九立方メートル、計七五立方メートルとなっています。

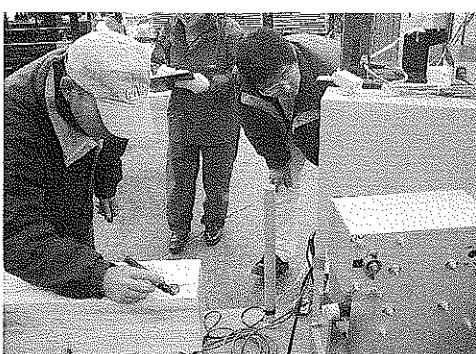
### 三 施設の規模、構造

面や長期たわみなどが算定でき、構造計算がしやすくなります。このように、住宅資材性能試験棟は、部材の性能表示制度を先取りしたものとなっています。

### 四 施設の内容

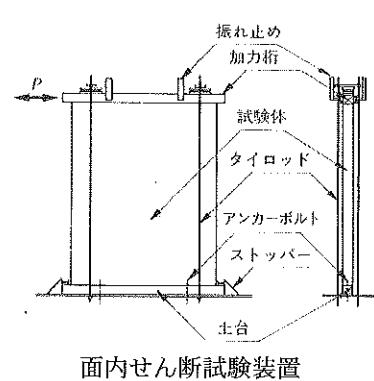
導入する主な試験装置についてご説明します。

#### (1) 面内せん断試験装置



部材ヤングの測定状況

合、特に接合部でどれだけの力に耐えるのかなど、強度的なデータを蓄積する必要があります。そこで住宅部材として壁や床の強さを測定するには、図のように水平方向から荷重をかけ、接合部の変形等から壁・床倍率を測定する方法がとられています。



面内せん断試験装置

# 技術情報

導入する装置は、通常のこうした試験に加え、実際の地震波に対しても部材がどう変形するかというような試験（仮動的応答実験とよばれるもの）もできる性能を備えています。

品確法の制定により、木造住宅の構造強度への関心が高まつてきています。今後こうした試験により製品の性能値をユーザーに示すことが増えると思われます。

## (2) 高周波蒸気式乾燥装置

徳島すぎを住宅構造材や内装材として使う場合、乾燥による反りや狂いがクレームの原因となる場合があります。また、他の建材との市場競争のなかで、いかに安く乾燥できるかが重要になってしまいます。

梁材など断面の大きな部材の内部水分を蒸発させるのは至難の技でした。ところが、高周波を用いることで、内部の水分を選択的に管理できることになります。この装置が、乾燥問題を解決する強力な助っ人となることを期待しています。

## (3) 音響測定装置

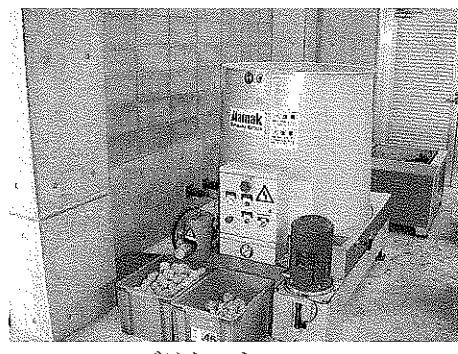
シックハウスへの懸念から健康住宅への関心が高まり、戸建て住宅や



現場での床衝撃音測定

## (4) 減容固化装置

昨年末の廃掃法等の規制強化で製材所などで新たな設備投資を余儀なくされ、大きな負担となっています。この装置は残廃材や樹皮を力



ブリケットマシン

## 五 優れた調温作用

新しい試験棟には厚さ三～四センチの徳島すぎを壁や屋根の野地板にふんだんに使い、構造的にも熱を逃す工夫をしています。このため、夏場でも涼しく感じられます。

夏期に隣接の強度試験棟と室内気候の比較をしました。天井の真下に設置した温度センサーの値は、

## 六 さいごに

実大強度試験棟が建築されて一五年が経過し、新技术開発試験棟の整備から十年になります。その間、林業を巡る経営環境は大きく変化してきました。新たな時代の技術課題に対応するため、この施設が広く利用されることを願ってやみません。



試験棟の内部構造

共同住宅で無垢材の需要が伸びています。ところが無垢材を床材として使った場合、階下への騒音が問題になってしまいます。

このため試験棟内に音響測定室を設け、いろいろな音響試験を実施していきたいと考えています。

あがつたブリケットは固形燃料として販売が可能ともなります。木くずをバイオマス資源として捉え、ブリケットの燃焼試験やバーク利用について試験を行う予定にして

から午後二時までの間で、両棟の壁面温度を比較すると、約二～三センチの差がありました。徳島すぎ厚板の遮熱性能が優れていることがわかります。

また、とくに暑さを感じる正午

は三五℃までしか達しませんでした。

# 阿波だぬき

# 「ああ ふるや」と

徳島農林事務所

林務課長 菅野良作

うさぎおいしかの山  
こぶなつりしかの川  
夢は今もめぐりて

忘れがたき ふるさと

四国八十八ヶ所の第二一番札  
所大龍寺の麓に私は住んでいる。

大龍寺を源水とする川は、以前は清らかで、アユが泳ぎ、「どうじょう」や「アユカケ」が生息していた。

夏は、大きな渕が子供達のプールとなり、アユ取りを始めた格好の遊び場であった。

数十年前から、大龍寺山の一角で、石灰の採掘が始まつてからは、川が埋まり、魚たちもいつしか姿を消してしまった。

高度経済成長時代の遺物か、今は採掘も中止となり大きな空洞が残るのみである。

このような移りわりと共に、私の住む集落も、最近は過疎化と高齢化が進んでいる。

秋祭りには、大人から子供まで大勢がお客様に集まつていたが、最近では少なくなり、さびしい限りである。

そうした山里を最近賑わしているのが、イノシシ、ハクビシン、カラス等の鳥や獣たちです。

私の家のミカンやカキ、トマトやウリといった自家菜園が一晩の内にやられてしまう。

それも完熟に近くなるとやられてしまう。困ったものだ。

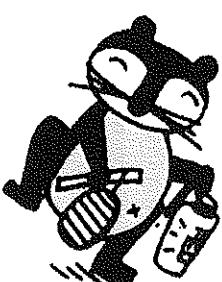
昨年から、網や囲いをして自己防衛に努め、今年は、それなりの成果があり、完熟の美味しいものを食べることができた。

一方で、出荷をしている農家

の方々のご苦労を察しながら、適切な予防手段と野生鳥獣との共生について思案するこのごろである。

また、私の家の周辺は、スギやヒノキの造林地が広がっている。見た目には、緑いっぱいの山々であるが、一歩林内に入るといふと、間伐がされていない山が目につく。

今、県をあげて森林整備を推進している。課題も多いが、きれいな水の確保と美しくて健全な山を末代まで残すことが必要である。



材使用の実践事例として、間伐材有効利用の普及を図っていきたいと思います。



川島

山林作業道、  
間伐材でリユースアル

川島農林事務所では、路面の陥没や法面の崩落等により、通行に著しく支障をきたしていた栃木県有林の作業道を補修するため、間伐材の利用促進を兼ね、作業道補修研修会を開催しました。研修会は九月十二日(火)に開催されました。では、約六〇cm陥没した作業道の路面に延長三〇m、高さ十五段の丸太組工を施工し、参加者二十五名の体験型研修として実施しました。

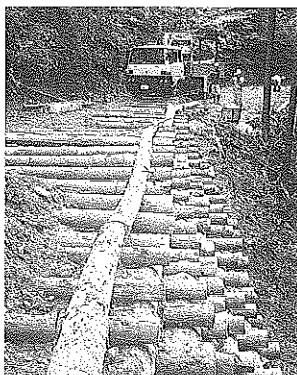
また、今回、研修会の施工箇所を含め、丸太組工二力所、山側丸太組土留め工二力所、丸太敷き路面工二力所を施工し、総量で三八・六八立方メートルのスギ間伐材を使用しました。今後、栃木県有林でのり二ユーチュアルを、作業道のモデル的な間伐

林業担い手対策と木材需要対策の情報を得るため、十月に高知県で先進地視察を行いました。香美森林組合は、三十五名の労務班員で、列状収入間伐や作業道開設を推進していますが、社会保険料には町の半額補助や、地籍調査を請け負うことで労務の安定化を図っています。

また土佐ドライウッド家づくりの会は、木材供給者と設計者の連携で地域材を使った健康住宅を提供しています。

池田

## 三好活性化センター 高知視察



その原木市場では、含水率とヤング率を単木毎に表示しています。葉枯し乾燥材に補助があるなど、品質確保は地域ぐるみです。

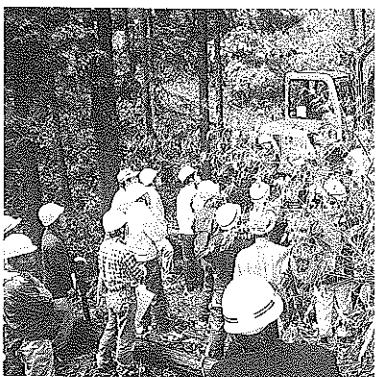
兼ねて視察に行きました。 視察の目的は搬出間伐のコスト削減および新しい作業システムの検討のために、徳島地区の若手林業者の交流を深める、二つのことを目的としています。

視察については、現地で説明を受けた後、実際に作業工程を見学しました。

德島農林事務所林務課 張西郁男

## 徳島 美都森 の視察

勝浦川若手林業研究会の十二名  
を中心し神山町五名、佐那河内村  
一名の総勢十七名で、九月二十七  
日に島根県の美都森林株式会社に  
徳島地区若手林業者交流研修会を



兼ねて視察に行きました。

## 日和佐

### 中学生と一緒に 海岸林の復興

海部郡の町は、すべて太平洋に面しており、古くから海岸林の重要性が広く認識されてきた地域です。

そこで子供達に海岸林の重要性を再認識してもらうため、去る十一月二十五日、海南中学校の三年生六十四名と一緒にマツの苗木の植栽をしました。

場所は日本の白砂青松百選にも選ばれている海南町の大里松原です。

海岸林の大切さ、保安林の働きを学んだ後、四人一組になって、松くい虫の被害跡地に支柱を設置しながら、六十四本の苗木を丁寧に植えていきました。

海南中学校では、十四年度から森林や林業に関する体験学習を行ってきています。今回が三回目となります。先生方の熱心な指導もあって、きれいに仕上りました。

日和佐管内では、町と協力して海岸林の体験学習を行っており、今年度は日和佐中学校と海南中学校の二校で実施してきました。今後は他の学校でも行う計画ですが、海岸林だけ

でなく、奥地林も含めた森林の大切さ、森林と海との密接な関係を訴える活動がもう必要だと痛感しました。

日和佐農林事務所

吉永 亨

むきの杉丸太からチエンソーリーのみを使用して作品を(制限時間四十分内)観客の目の前で作りました。

選手九名は、チエンソーリーの高度な操

作技術とそれぞれの個性、美的センスを生かし、椅子や灯籠、オブジェ、クリスマスツリーなどの素晴らしい九作品が出来上がりました。

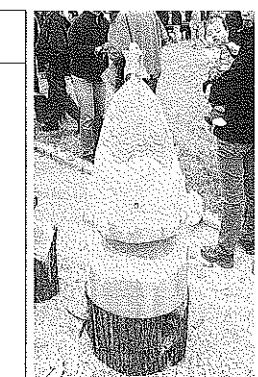
ギヤラリーカラは盛大な拍手が選手全員に送られました。

尚、作品(四点)は脇町農林事務所に展示中です。

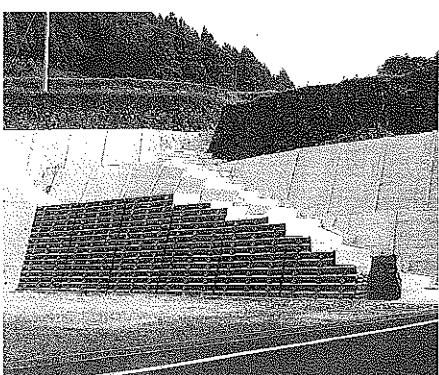
脇町農林事務所 細川光広



## 脇町 県内初 『チエソーアート』



## 阿南 集成材利用の 施工例



阿南農林事務所 黒島計治

相生町の町道改良工事において、スギの間伐材から生産した集成材による施工例を紹介します。

現場は国道一九五号線沿いにあり、起点部分において集成材により田畑への取合道を施工しています。

す。道路上に隣接する田畑は六m程度高くなっています。工事は田畑の一部と歩道を切取り、幅員を拡張するものです。

現地は岩盤が露出し石積も安定しているため、簡易な構造物での歩道の復元とし、木製ブロックを計画しました。施工は集成材の控木を横木を組み合わせ、中詰には中詰土石漏れ防止のため早期緑化のため植生ネットを設置しています。

現地の土石を利用し、背面には中詰には有効です。

この工法は安価であり、また組みやすく加工されているため施工も容易で、コスト縮減及び工期の短縮には有効です。